

3 科目概要・取り組みと改善点

1 年生

科目名 (科目責任者)	授 業 概 要
現代文明論Ⅰ (小川 景子)	<p>「現代文明を考える」というテーマで、現代文明とそれがもたらした問題について、様々な視点から考え現代に生きる人間として、何をなすべきかを考えることをねらいとしている。講義は、「建学の精神と現代文明論」「現代文明の光と影」「文明の未来を考える」の枠組みで構成している。講義後に受講用紙を記入することで、講義内容をまとめ自己の考えを整理する機会となっている。最終回は、「現代文明を考える」というテーマで自己の関心ある内容に焦点をあて（サブテーマ）課題レポートをまとめグループで意見交換を行った。こうした活動が、1つのテーマについて様々な角度から考えることの大切さを認識する機会となっている。</p>
現代文明論Ⅱ (小川 景子)	<p>「生活を科学する」というテーマで、生活を多方面からとらえ、未来に向けて自分は何をすべきかを考え、自らの考えを培っていくことをねらいとしている。講義は、「生活を豊かに」「生活と社会」「未来に向けて」の枠組みで構成している。講義後に受講用紙を記入することで、講義内容をまとめ自己の考えを整理する機会となっている。最終回は、「生活を科学する」というテーマで自己の関心ある内容に焦点をあて（サブテーマ）課題レポートをまとめグループで意見交換を行った。こうした活動が、1つのテーマについて様々な角度から考えることの大切さを認識する機会となっている。</p>
文化人類学 (鳥塚 あゆち)	<p>文化人類学の中でも特に医療・看護に関わるテーマについて、世界の異なる社会における多様な習慣を事例として提示し、異文化理解を通じて、人間を総合的に考える能力を身につけることを目標としている。授業が受身とならないよう議論の機会を設けたが、積極的な意見が出て良かった。またレポートにおいても、自分の意見を述べる事ができた学生が多く、一定の評価ができる。</p> <p>次年度においては、授業で取り上げたテーマや事例を、自分の身近な事例に当てはめて考えることができるよう、ペアワークやグループワークの時間を設け発表の機会を増やしたい。</p>
地球環境と科学 (内田 晴久)	<p>誰にとっても密接なかわりのある地球環境に対する理解を深めること、そして自然に優しいエネルギーの獲得と省エネや資源のリサイクルも含めた生活の在り方に対する理解を深めてもらうことを目的に、多様な側面から簡単な教卓実験も含めた講義として展開した。病院等における看護の現場においても自然とのかかわりは多様な形で存在しており、自然環境への理解およびエネルギーの視点は、より豊かにかつより深い気配りのできる看護にもつながるものと考えている。興味をもって聞いていただいたが、一層深い理解を実現していく上でも卓上実験だけでなく、発表等も含め学生が参加できるような体験型の学修の機会を増やしていく必要がある。</p>
芸術と表現 (中村 朋子)	<p>西洋美術の代表的作品を通史的に鑑賞しつつ、各作品の背景にある思想や社会のありようについても併せて学び、西洋の文化・芸術について一定の知識を身に付けること、また、その過程を通じて、履修者各自がより広く人間について考える視野や感受性を養うことを目標とした。授業では毎回、各自の意見等を求める小ペーパーを実施した。また中間および期末試験を通じて、</p>

	<p>授業内容に対する理解度や各自の見解について問うた。多くの学生に真摯な学習態度がみられたが、自分の見解を適切な文章で表すことが不得手な者が多いように思われた。今後は毎回の授業テーマなどを再検討し、学生たちが思考力や表現力をより発揮できるよう工夫したい。</p>
<p>コミュニケーションと対人関係 (横山 孝行)</p>	<p>看護師にとって、コミュニケーションを通して良好な対人関係を築く力は必要不可欠である。そのため、人間関係に関する理論的知識の獲得、自他を尊重した自分なりのコミュニケーションスタイルの確立、良好な人間関係について多面的に考える力の涵養を目指した授業を行った。具体的には、自己・他者・集団との関わり方について、講話と演習を両輪とした知的・体験的な学習を促す授業を設計した。多くの受講生が積極的に授業に参加した。ただ、受講生の中で理論的な概念の理解に差が見受けられたため、次年度はより理解を促すような説明を行う。また、授業内の学びを定着させるような仕掛けをさらに検討していく必要がある。</p>
<p>発達心理学 (古志 めぐみ)</p>	<p>人間の誕生から始まり死に至るまで、各発達段階の特徴及び、直面する課題等を生涯発達・発達臨床心理学的な視点から理解する。また、自分自身のこれまでの発達を振り返り、体験的に考え、自己理解・他者理解を深めていく。そして、様々な人との関係作りの基礎ひいては、看護師に必要な職業的な人間理解を考えられるよう組み立てている。今年度は、昨年度より改善がみられたものの、自己学習の進め方の提示希望の声が多かった。次年度は、学生が授業後も学びを深めていけるよう、テキストの提示・参考資料の配布、参考文献・論文等の紹介も併せて行っていく必要がある。</p>
<p>経済のしくみ (参川 城穂)</p>	<p>基礎教育科目という位置付け上、一般的な教養として経済の基礎的な考え方・仕組みを理解し、経済はもちろんのこと、社会に対する多角的な視野を持てるよう組み立てている。履修者の関心や理解度を重視し、講義内容に柔軟性を持たせた結果、履修者の授業目標到達度、満足度とも最高水準のものとなった。次年度も同等レベルの到達度、満足度を得られるよう履修者の興味関心や理解度を計る等鋭意工夫をする努力の継続が必要である。</p>
<p>ことばと表現 (緒川 直人)</p>	<p>医療・看護などの専門職業人は、報告書やレポートの執筆が重要な職務となる。そこで、本科目では、レポートの基本的な技法と、具体的かつ論理的な文章表現の習熟を目指した。具体的で論理的な文章表現には、前提として、論題についての知識・想像力・思考力を要する。それゆえ、本科目では考える力の涵養を期し、アクティブラーニングの手法も導入して、複数の論題について、グループでの学外調査・調査報告・討議の時間を設けた。その成果をもとに、最終レポートの執筆を課した。</p> <p>本年も、自身の思考を深め、文章表現に習熟する意欲的な学生は少数である。原因は二つ。一つは、復習と修正の努力を怠り。二つには、思考を文章に置き換える技法と語彙の不足である。後者の習熟に工夫を要する。</p>
<p>国際理解とデンマーク看護研修 (中田 芳子)</p>	<p>「諸外国の異文化に触れ、そこから日本を考える機会にする。主にデンマークの社会・文化・福祉および医療や看護の実際に触れ、これからの医療・看護のあり方、自己のあり方について考えを深める機会とする。」を目的として、2週間のデンマークでの研修を行った。今年度は、17名の学生が参加した。学生は教育や福祉、医療や看護に関連する施設の訪問と人との交流を通し、デンマークの文化や社会、教育制度、医療システムや福祉サービス、看護や看護教育等多くの学びを得ていた。また、今年度は交流を開始して、40年目となり、VIAユニバーシティカレッジにおいて40周年記念式典が開催さ</p>

	<p>れ、東海大学総長、本学学長、研修団を招待した。式典に参加して学生は改めて、交流の必要性を感じていた。帰国後は、研修報告をまとめ、飛鷗祭のプレゼンテーションや掲示発表の過程で、自分自身のあり方や生き方についても考えを深めていた。</p>
<p>情報検索と活用 (望月 好子)</p>	<p>今年度は77名が履修した。今年度は、情報リテラシー、看護における情報、文献検索方法、表計算・プレゼンテーションソフトの基本的活用法を学習したのち、グループごとに関心のあるテーマについて、文献検索整理したものを2クラス合同にて発表会を実施し共有学習した。また、病院の協力を得て、実際の電子カルテ操作演習の機会をもった。PC操作においては、学生個人のレディネスが同一ではないために、特に授業のペースに遅れがちな学生へのサポートが必要である。また、大学のPC実習室のネット環境が非常に悪く、授業の進行に支障をきたしたため設備・機器等の改善・更新が必要である。</p>
<p>情報の処理と分析 (須藤 真由美)</p>	<p>今医療の現場では医療の情報化がすすみ、医療スタッフとしては、経験・知識を深めるだけでなく、情報をもとに積極的に研究成果を発表することが求められている。そのため、客観性を主張する医療統計学の専門知識を持つこと、さらに、医療データをもとにコンピュータを利用して統計的な分析ができるようにすることを目的に授業を進行させた。資料を解析でき又発表資料の作成ができるように、事例を多く扱った。事例を検討すること、個々のコンピュータ操作能力をあげることで、医療データから自力で研究発表文をしあげることができるようになった。</p>
<p>英語：スピーキング (Jon Mudryj)</p>	<p>This basic level speaking class will focus primarily on learning to interact with classmates in English about various topics. There will be a small amount of listening and writing activities to facilitate more interest and supportive vocabulary and grammar.</p> <p>Students achieved many of the goals of this course.</p> <p>Next year, there will be more focus on independent production of language through presentations and short speeches.</p>
<p>英語：ライティング (宗藤 悦子)</p>	<p>正しく分かりやすい英文で自分を表現することができるよう、出来事の伝達から、内面の表現へと内容を深めながら、易しい文から複雑な文へ、更に複数の段落からなる論理的な伝達文へと練習を積み重ねる。さまざまな話題の模範英文を学習してから自分の作文にとりくんだが、模範英文の一部を置き換えただけで独自の内容まで表現できなかった学生もいる。英語と書くべき内容の観察発見を両輪で身に着ける必要がある。</p>
<p>英語：リスニング (飯沼 好永)</p>	<p>病室で使われる基本的な英会話や日常生活の様々な場面における英会話を聞きながら、リスニング力と様々な英語表現を身に付けていくことに取り組んでいる。また音声ファイルを自宅で聞く課題を出し、授業以外でもリスニング力を高める機会を設けている。少人数ということもあり、全員が真面目に取り組む、当初の学習の到達目標は達成できたのではないかと考えられる。</p>
<p>フィットネス理論・実習 (大津 克哉)</p>	<p>生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践能力を学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を体験することで、「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理解を深めるとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。この授業で育成する力・スキルは、「自ら考える力」・「集い力」である。単位の取得後も、個々に合わせた適切な運動処方による運動の継続</p>

	と、健康的なライフスタイルの確立ができれば望ましい。
スポーツ理論・実習 (大津 克哉)	生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践能力を学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を体験することで、「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの持つ「おもしろさ」などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。この授業で育成する力・スキルは、「自ら考える力」・「挑み力」である。単位の取得後も、授業の空き時間などを利用して運動を行う習慣を身に付けることが望ましい。
現代医療論 (灰田 宗孝)	医療チームの一員として質の高い看護を提供することの重要性を認識するために、現場の看護師をはじめ医師、薬剤師、栄養士、リハビリテーション技師、臨床工学技師あるいはメディカル ソーシャルワーカーなど他職種の講師によりそれぞれの専門性につき学ぶ。そして、各専門職の人たちがどの様に看護職と連携しているか、また看護師に期待されるものは何かにつき理解を深める。種々の業務があるなかで、病院事務に関する話が欠如していたため、本年度は科目責任者がまとめをかねて病院事務についても紹介した。また、まとめをするに当たって、各講師の実際の内容を調べたことを来年度以降に役立てたい。
疫学と生活環境 (相川 浩幸)	健康障害の要因の大部分を占める環境について現状を把握し、また疾病との関連性を理解することにより疾病予防対策の一助となり、しいては健康を維持することになる。その環境は常に身近で接しており、経験・体験してきたにも係らず「人間-環境系」を理解されずにきているのが現状である。この点を踏まえて、日常生活の場を例に取り入れながら環境と健康障害との関係、並びに疫学にて現状を学習する。
人体の構造 (二葉 千鶴)	各種資料を参考に講義の要点をまとめたプリントを配布し、それに沿って授業を行った。1年次から看護師国家試験を想定し、過去問や問題集から出題傾向を予想。定期試験は出題傾向から作成し国家試験レベルまで習熟できていることを確認した。教科書を十分に活用できていなかったという反省点があり、次年度は授業中や予習復習に使用出来るよう工夫が必要である。
人体の機能 (泉 義雄)	解剖学、組織学などの形態についての基礎的知識から、各々の器官の働きについての相互の関係付けを通して、個体全体としての働きに関心を持ち、生命現象を学習する。内部環境の恒常性、神経性調節、ホルモン調節などの人体の恒常性維持機能について学習する。神経系および感覚器については、人体の構造で学習するので除く。学習内容が多いので、できるだけ要点を整理して板書する。ノートを作りながらポイントの説明を行う。時間があれば国家試験の既出問題も解説する。
代謝と栄養 (泉 義雄)	人体は皮膚粘膜によって覆われ、外界と区別された固体であり、体内では血液・組織液を介して細胞一つ一つに栄養や酸素を行き渡らせている。細胞はそれらを使ってその細胞固有の機能を果たし、生産物や不要老廃物を血中に排出している。60兆個にもなる細胞の活動を保持するためには、体内に十分かつ適切な栄養素が取り込まれ円滑に代謝が行われる必要がある。代謝の乱れは、内部環境(体内環境)に乱れをきたす。この乱れこそが、病気である。学習内容が多いので、できるだけ要点を整理して板書する。ノートを作りながらポイントの説明を行う。時間があれば国家試験の既出問題も解説する。

<p>感染と防御 (泉 義雄)</p>	<p>感染症の成立の条件(感染源、感染経路、感受性者)、病原微生物について概説する。感染症を飛沫・接触感染する疾患、食物を介する疾患、性感染症・血液を介する疾患、その他に分けて学ぶ。感染症の主要症状と治療について学び、感染症新法に定められているⅠ類からⅤ類の代表的疾患について学ぶ。院内感染についても学習する。学習内容が多いので、できるだけ要点を整理して板書する。ノートを作りながらポイントの説明を行う。時間があれば国家試験の既出問題も解説する。</p>
<p>臨床病態学Ⅰ (泉 義雄)</p>	<p>疾病の成り立ちと回復について学ぶ。まず、種々の疾患にみられる基本病変について学習した後に、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎臓・泌尿器疾患について学習する。学習内容が多いので、できるだけ要点を整理して板書する。ノートを作りながらポイントの説明を行う。時間があれば国家試験の既出問題も解説する。</p>
<p>臨床病態学Ⅱ (二葉 千鶴)</p>	<p>神経疾患、血液疾患、内分泌疾患、アレルギー・自己免疫疾患、精神疾患の分野を担当した。各種資料を参考に講義の要点をまとめたプリントを配布し、それに沿って授業を行った。1年次から看護師国家試験を想定し、過去問や問題集から当該問題を抽出し練習させ、定期試験で国家試験レベルまで習熟できていることを確認した。教科書を十分に活用できていなかったという反省点があり、次年度は授業中や予習復習に使用出来るよう工夫が必要である。</p>
<p>看護学概論 (吉田 礼子)</p>	<p>看護・看護学とは何か。先人の考え、歴史的変遷、社会的位置づけなどを伝え、広い観点から看護の本質を考え自己の看護観を養えるよう働きかけた。さらに、生涯にわたる学習・実践・探究の必要性和意義・喜びを見出せることをめざし、看護の現状と展望を教授した。授業評価はおおむね良好であったが、初学者にはなじみにくい内容もあり知的関心を引き起こすところまでは至らなかった。学生参加型の方法を取り入れるなどの工夫が必要である。</p>
<p>看護アセスメントⅠ (蔵本 文乃)</p>	<p>看護の対象の健康状態を把握するために必要なバイタルサインの観察技術を含めフィジカルアセスメントの理論と方法を学習した。</p> <p>講義は、人体の構造と機能などの人間を理解するために必要な基礎的知識を活用しながら理解を深め、講義ごとに試験を実施し基礎的知識の確認を行った。演習では、対象の心身の状態を把握する為に、正確な情報を収集する確かな技術とそれらの情報が示す意味を考える学習をした。バイタルサインの測定や基礎的なフィジカルアセスメントの技術の習得の確認のため、技術試験を実施した。技術試験により、測定方法を修得することは出来たが、「測定する意味」「値が示す意味」について理解できるよう指導していく事が課題である。</p>
<p>看護アセスメントⅡ (蔵本 文乃)</p>	<p>「その人にあった看護」を実践するための方法として、問題解決思考のプロセスである看護過程のうち、アセスメントおよび問題の明確化と、知識や技術を活用し柔軟で多面的に思考を働かせるためにクリティカルシンキングについて学習した。</p> <p>看護過程演習では、疾患の理解と対象の状況のイメージ化が困難であったため、方法論だけではなく、病態・治療・発達・状況の理解が出来るような工夫が必要である。</p>
<p>看護の基本技術Ⅰ (岩屋 裕美)</p>	<p>看護実践の基盤となる看護技術の概念および看護技術を実践するための構成要素、看護技術修得の過程と構造を概観した上で、①看護とコミュニケーション、②感染予防について学習する。本科目は異なる2つの内容を含んで</p>

	<p>いるが、どちらも全ての看護技術に共通する基本的な看護技術であり、アートとサイエンスの両面が融合された看護技術の修得をめざしている。看護技術は対象との人間関係の形成や対象の状況への適応が重要であるため、事例や映像を多く取り入れた講義や模擬的状況を設定した演習の計画、毎回の講義の中でグループ討議を行った。入学後間もない学生であっても臨床場면을イメージし、各看護技術の原理原則の理解を深め、今後の課題や方向性を見出すことができた。技術試験を設けていない科目であるため、技術修得に向けた自己学習への動機づけが今後の課題である。</p>
<p>生活過程を整える 看護技術Ⅰ (久保 典子)</p>	<p>病床環境の調整、姿勢と動作、活動・休息・睡眠、褥法、衣生活等に関する基本的な援助方法を理論と実践を通して学び、その人の生活を支えていくことの意義について考えることを目標とした。単に看護援助の手順を学ぶのではなく、対象者の生活と照らし合わせ、その人が必要としている援助を科学的根拠をもとに考え、実践することを目標とした。</p> <p>学生からの授業評価はおおむね良好であった。昨年度の振り返りをふまえ、授業の中間の時点でもシラバスに記した学習の到達目標を説明し、学生が学習の方法などを改めて確認できるよう心掛けた。今後も、シラバスや看護技術到達度記録を授業で活用し、学生の自己学習に役立つように働きかけたい。</p>
<p>生活過程を整える 看護技術Ⅱ (久保 典子)</p>	<p>その人が健康でその人らしく生きるために必要としている身体の清潔、栄養と食生活、排泄など生活過程を整えるために必要な基本的な援助方法を既習の知識と技術を活用し、理論と実践を統合しながら学習すること、および単に方法を学ぶのではなく、自らの生活と照らし合わせながら理論と関連づけて考え、他者への援助をするために必要な技術について学習することを目標とした。</p> <p>授業評価はおおむね良好であった。学生の演習後の課題レポートについては、話し言葉や誤字が見られるものが少なくないため、レポートを作成する際の適切な文章表現等について授業およびレポートのコメントにて指導を行い、若干の改善傾向がみられた。次年度も継続する。</p>
<p>成人看護学概論 (丹澤 洋子)</p>	<p>ライフサイクルの中の成人期にある人の成長・発達の特徴、生活と健康、及び成人を取り巻く保健・医療・福祉政策について概観し、成人看護の役割について学習する。また、成人期にある人の理解を踏まえた上で効果的なアプローチをするために、活用可能な理論について学習する。さらに、成人期の人を対象とした調査とグループワーク・発表を通して、成人期にある人の理解を深める。</p> <p>今年度も、身近な成人を対象としたインタビュー調査により、成人期にある人の理解を深めることができた。昨年度の授業評価から、成人期にある人への効果的なアプローチをするために活用可能な理論を理解するのが困難であったことが伺えたため、今年度から、理論を用いて事例検討を行った。学生の反応を参考に内容の検討と時間の調整を行っていく。</p>
<p>老年看護学概論 (鈴木 陽子)</p>	<p>「ライフサイクルの最終段階である老年期の特徴および高齢者の加齢に伴う身体的・心理社会的機能の変化と特徴を理解し、高齢者にとっての健康やQOLを考える。人口構造や家族形態の変化と社会システム、高齢者の権利擁護等、高齢者を取り巻く社会の視点から看護の果たす役割を学ぶ。」を科目目標として、講義や演習等の授業を展開した。</p> <p>高齢者疑似体験演習では高齢者の身体的特徴だけでなく日常生活上の動作や不自由さを体験的に理解し、生活環境の工夫や援助方法についても考える</p>

	<p>機会となった。関心を継続し知識化できるようにさらに工夫していく。</p> <p>高齢者の心理・社会面にかかわる諸理論については、講義時間を増やしたことにより解り易さに繋がったと考える。しかし、高齢者の生活を支える制度や社会資源等の理解についてはやや困難性がみられたため、学習内容の精選や学習方法を工夫していく必要がある。</p>
小児看護学概論 (澁田 明子)	<p>乳幼児期・学童期・思春期それぞれの発達課題と健康問題について学習する。①乳幼児期の成長・発達と生活援助②学童期の子どもの成長・発達と生活援助③思春期の成長・発達と生活援助④小児期の健康の問題とその対策⑤小児と親の権利と看護倫理について学習する。</p> <p>自分の小児期を思い起こせるよう映像や音楽を用いて授業を進めることで、小児の発達段階及び現代の小児に対する課題の理解に繋がっていた。今後は社会全体の中での小児位置づけを意識できるようにしていく。また、思考を共有できる授業方法の検討をしていくことが課題である。</p>
精神看護学概論 (吉野 由美子)	<p>本科目では、精神看護学に関する基礎的理論と、精神の発達と精神的健康を保持増進する生活のあり方、および、看護学的な観点から、健康障害の見つけ方について学習する。学習方法として精神障がい当事者の語りや事例を取り入れることにより、学習した理論を具体的で身近な事象と結びつけて考え、理解が深められた。看護学的な視点のものの見方考え方が促進されるような教材・教授方法をさらに精選することが課題である。</p>
基礎看護学実習 I (久保 典子)	<p>病院の概要・看護師の看護活動の見学、患者との対話を通して、患者の思いや体験、行われている看護の意味について、自分自身のあり方を含め多くの気づきを得ていた。昨年度に日々の体験記録の内容が乏しい学生や、目標に沿っての振り返りができない学生がいたため、今年度は日頃の授業や実習のオリエンテーション時に文章の適切な表記法等について指導した。また、日々の実習目標を明瞭にし、その目標の達成度をふまえた振り返りや学びを実習記録に書くよう指導した。その結果、自己の体験や、気づき・学びを具体的に記録できるようになり、若干の改善傾向がみられた。次年度も継続する。</p>